

## 戦後初期社会科教育実践史研究

— 吹上<sup>ふきあげ</sup>小学校コア・カリキュラムと— 内原<sup>うちはら</sup>小学校地域教育計画の検討 —

木 村 博 一

## 1. はじめに

戦後の民主化の動きは学校教育にも反映した。昭和22年に発表された『学習指導要領一般編(試案)』は、「その地域の特性や学校の施設の実情や、さらに児童の特性に応じて、それぞれの現場でそれらの事情にぴたりした内容を考え、方法を工夫して」各<sup>(9)</sup>学校が教育課程編成や教育内容研究を自主的に行うことを奨めている。これを契機として、いわゆるカリキュラム運動が起こるのであるが、水内宏氏はその潮流をコア・カリキュラム型と地域教育計画型に分類している。両者は経験主義の教育観に立脚し、生活中心のカリキュラムを構成して、民主的な実践者を育成しようとしたこと等、多くの共通点を有するが、各々次のような特色をもっていると考えられる。

コア・カリキュラム運動は22年版学習指導要領に示された教育課程にみられる全体的な矛盾、すなわち生活教科・広域総合教科としての性格をもつ社会科と分科主義的な他教科との教材の重複や不統一を解消することを契機として展開する。したがって、生活(社会科)を中心とするコア・カリキュラムの中に、学習指導要領に示された各教科の内容をどのように再組織するかという内容編成面に焦点が置かれ、教育内容に対する吟味検討は行われない傾向がある。また、単元構成はスコープとしての社会機能法とシーケンスとしての同心円拡大方式を軸として行われる場合が多く、社会を静的にとらえており、相互依存主義である等の問題点が指摘されている。

他方、地域教育計画は戦前の中央集権的な教育編成に対する反省から、地域における教育計画の自主編成に教育民主化の道を求めて展開する。したがって、教育課程のすべてが地域社会と直結する形で編成され、教育内容も地域社会との関係から調査にもとづいて吟味選定される特色をもつ。また、単元構成法はコア・カリキュラムのそれとほぼ同様であるが、児童の心理面に重点を置いてシーケンスが設定される場合が多い。指摘される問題点もコア・カリキュラムに対するものと同様な点が多いが、特に地域的閉鎖性が問題とされている。以上がコア・カリキュラムと地域教育計画の一般的傾向と問題点であろう。

そこで、本研究は和歌山<sup>ふきあげ</sup>県の吹上小学校(和歌山市)の編成したコア・カリキュラムと、内原<sup>うちはら</sup>小学校(日高郡内原村、現・美浜町)の編成した地域教育計画を検討し、その特色を解明するとともに、それぞれの位置づけを行おうとするものである。両校の編成したカリ

キュラムは非常にユニークなもので、当時全国的に評価を受けたといわれているが、今日に至るまで初期社会科教育実践史研究の上に紹介されていない。したがって、両校のカリキュラムの構造・内容、教育観を記述検討する中で特色と位置づけを明らかにしたい。

## 2. 吹上小学校のコア・カリキュラム

### (1) カリキュラムの構造

吹上小は、22年版学習指導要領が内包している「社会科だけが生活現実に即した内容構成であり、他教科は個々別々の内容構成であるという矛盾」の解決、つまり社会科と他教科の教材が重複することの解消をコア・カリキュラム編成の動機として掲げている。この点は一般的傾向と符合する。<sup>(①, 8)</sup>

吹上小のカリキュラム構造は昭和23年度のもの(一次プラン)と24年度のもの(二次プラン)では変化がみられる。一次プランは「社会生活における基本的問題解決の学習を中核」とする“核心学習”と、「基礎的な熟練」をなす“関係学習”の二重の同心円構造である。<sup>(①, 5)</sup>二次プランは核心学習・関係学習に、新たに“系統学習”“訓育課程”“個別課程”を加えて総合的なカリキュラム構造となる。また、二次プランの核心学習は「社会生活における色々の課題を中心に児童の経験を通して、生活に正しい理解・態度・技能を得させ、完全な民主的な近代的社会人として性格づけられるための学習」(社会科的な学習)を行う“中核課程”と、児童の日常生活上の問題を扱う“日常経験課程”の二者に分けられ、二つのコアを有するカリキュラムとなっている。このような吹上小のカリキュラムの構造及び変化はコア・カリキュラム連盟の影響を受けたものであり、一般的傾向の域を出ていない。

吹上小のカリキュラムの注目すべき点は、核心学習が「現実の生活環境を構成する自然と社会とそれに人間主体の三者に関係あるものを統合」したものを内容とし、「民主的な近代的社会人」を育成する学習を行う課程として位置づけられている点である。具体的何を内容とし、どのような人間を育成しようとしたのか、を以下で考察しよう。<sup>(①, 5)</sup>  
<sup>(①, 15)</sup>

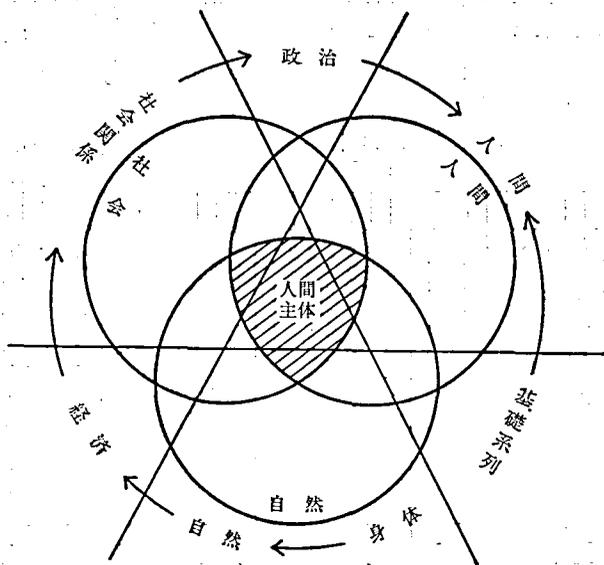
### (2) 単元の構成

戦後の吹上小は「正しい社会を建設する人間主体の育成」を一貫して教育目標としている。正しい社会は「世界性をもつ民主主義の正しく行われる社会」を、人間主体の育成は「現実生活乗り越えて理想を追求する人間を陶冶すること、そしてこのために倫理的努力と決断力をもつ人間を育成すること」を意味している。すなわち、現在の市民社会への適応力もち、さらに困難を克服してより良い民主主義社会を建設しようとする改革の人間の育成をめざしているのである。<sup>(①, 3)</sup>

この教育目標を達成するために、スコープとシーケンスを軸として単元構成が行われるのであるが、以下では昭和24年度のプランについて考察する。吹上小のスコープは社会機能法による静的羅列的なものとは異なったユニークなものである。すなわち「身体→自然→経済→社会関係→政治→人間←基礎系列」という「発展的排列」として設定されている。<sup>(①, 19)</sup>

このスコープは「主体が環境との交互関係によって自己を実現していく立場」に着目して、「自然・社会・人間の三領域」を考え、それを「人間との交渉関係」より組み立てて設定されたものである。すなわち、人間自身の“身体”から出発して、人と自然の関係を“自然”，人と物の関係を“経済”，人と人（個人的）の関係を“社会関係”，人と集団の関係を“政治”にとらえている。そして、これらの主体と環境との関係をふまえて、スコープ

〔図表一I 吹上小学校のスコープの構造〕



“人間”で「主体性ある人間育成」をめざす倫理的価値的陶冶の面に重点を置いた内容が扱われるという構造になっているのである。尚，“基礎系列”は他のスコープの基礎としての意味をもたされている。図示すれば図表一Iのようになろう。このように吹上小のスコープは、あくまでも人間主体の育成を主軸として、主体と環境との関係を構造的発展的にとらえて設定されたユニークなものであり、教育目標を反映したものだといえよう。

他方、シーケンスは同心円拡大方式を採用している。すなわち、1年「家庭および近隣」、2年「郷土（和歌山市）を中心として県および近府県」、3・4年「郷土（和歌山市）を中心として近府県へ拡がりをもつ」、5・6年「郷土（和歌山県）を中心として日本および世界に拡がりをもつ」となっている。教育目標の「正しい社会」を児童の発達に合わせて拡大するという構成になっているといえよう。<sup>(⑩, 49~50)</sup>

このスコープとシーケンスを軸として各学年の「生活課題」が設定される。吹上小は生活課題を「児童が近代的民主社会に適應し更に正しく社会を革新し建設していく人間として自己形成する生活発展の途上に於いて必然的に遭遇しなければならない望ましい体験」<sup>(⑩, 45)</sup>



〔図表ⅠⅢ 吹上小学校の単元一覽表(昭和24年度)〕

(26)

月	一 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年
四	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校</li> <li>・春の野</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの教室</li> <li>・遠足</li> <li>・子供のおいし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動植物と私達</li> <li>・子供会</li> <li>・遠足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の恵み</li> <li>・子供会</li> <li>・憲法記念日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔と今の交通通信</li> <li>・五年生</li> <li>・貴善の日</li> <li>・身体検査</li> <li>・子供の日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新憲法と私達</li> <li>・学校新聞</li> <li>・修学旅行</li> <li>・商工祭</li> <li>・衛生週間</li> </ul>
五	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のおいし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水と生活</li> <li>・虫歯予防デー</li> <li>・時の記念日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場と工場</li> <li>・開校記念日</li> <li>・梅雨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食糧の確保</li> <li>・梅雨の生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天体気象の研究</li> <li>・母の日</li> </ul>
六	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お食事</li> <li>・梅雨の頃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕涼み</li> <li>・夏休み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開市記念日</li> <li>・夏休みの計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳と保健</li> <li>・夏休みの計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳と保健</li> <li>・夏休みの計画</li> </ul>
七	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏のあそび</li> <li>・七夕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丈夫な体</li> <li>・台風</li> <li>・彼岸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山の交通</li> <li>・秋の天気</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織物工業と衣生活</li> <li>・測候所</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象と人間生活</li> <li>・作品展覧会</li> <li>・運動会</li> </ul>
八	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お月見</li> <li>・お月見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二百十日</li> <li>・虫集め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とり入れ</li> <li>・海と山</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山の交通</li> <li>・秋の天気</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織物工業と衣生活</li> <li>・測候所</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象と人間生活</li> <li>・作品展覧会</li> <li>・運動会</li> </ul>
九	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お月見</li> <li>・お月見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二百十日</li> <li>・虫集め</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とり入れ</li> <li>・海と山</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山の交通</li> <li>・秋の天気</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織物工業と衣生活</li> <li>・測候所</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象と人間生活</li> <li>・作品展覧会</li> <li>・運動会</li> </ul>
十	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の野山</li> <li>・体育会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会</li> <li>・ゆうびん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲の収穫</li> <li>・防火週間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織物工業と衣生活</li> <li>・測候所</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織物工業と衣生活</li> <li>・測候所</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象と人間生活</li> <li>・作品展覧会</li> <li>・運動会</li> </ul>
十一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足</li> <li>・日なたと日かげ</li> <li>・おうち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お百姓さん</li> <li>・火の用心</li> <li>・お正月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の仕度</li> <li>・クリスマス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林</li> <li>・私達の文化活動</li> <li>・冬の衛生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・織物工業と衣生活</li> <li>・測候所</li> <li>・運動会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象と人間生活</li> <li>・作品展覧会</li> <li>・運動会</li> </ul>
十二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たこあげ</li> <li>・学芸会</li> <li>・お友達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様ごっこ</li> <li>・買物</li> <li>・学芸会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬のくらし</li> <li>・燃料</li> <li>・学芸会</li> <li>・四年生の反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい私達の生活と勉強法</li> <li>・家庭生活の工夫</li> <li>・学芸会</li> <li>・卒業生を送る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい私達の生活と勉強法</li> <li>・家庭生活の工夫</li> <li>・学芸会</li> <li>・卒業生を送る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うるおいのある生活設計</li> <li>・責善の日</li> <li>・卒業に対する心がまえ</li> </ul>
一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たこあげ</li> <li>・学芸会</li> <li>・お友達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様ごっこ</li> <li>・買物</li> <li>・学芸会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬のくらし</li> <li>・燃料</li> <li>・学芸会</li> <li>・四年生の反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい私達の生活と勉強法</li> <li>・家庭生活の工夫</li> <li>・学芸会</li> <li>・卒業生を送る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい私達の生活と勉強法</li> <li>・家庭生活の工夫</li> <li>・学芸会</li> <li>・卒業生を送る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うるおいのある生活設計</li> <li>・責善の日</li> <li>・卒業に対する心がまえ</li> </ul>

(※三年以上の。は主単元を。は副単元を示すものとする。)

主体的な人間の育成という教育の立場から設定された吹上小のスコープは、相互依存主義・機能主義的な面を克服し、社会への適応から改造へと進む児童の育成を可能にするものと評価できる。それは広岡亮蔵氏が「牧歌的なカリキュラムの自己批判」で社会機能法を克服するものとして提唱されたスコープ論と相通ずる所があることから裏づけされよう。<sup>(9)</sup>しかし、吹上プランは相互依存主義を実質的に克服しているとは言い切れない。各単元を構成する生活課題はスコープにもとづいて設定されている。けれども、それは児童が人間主体として自己形成するのに遭遇すべき課題としての性格をもっているが、矛盾を抱えた日本の歴史的社会的現実には目を伏せたものであった。したがって、吹上プランはスコープによって理念的に相互依存主義を克服し得る方向を示していたと評価できるが、改革すべき社会的課題をとらえきれなかったところに限界性があると考えられるのである。

### 3. 内原小学校の地域教育計画

#### (1) 地域教育計画観

内原小は「我々が地域の人々と共に、その地域社会に於ける教育計画を構成する事であり、それに依ってのみ、教育の民主化への事実としての姿が具現できる」と、戦前の中央集権的な教育計画編成に対する反省を示し、地域における教育計画の自主編成に教育民主化の道を求めている。<sup>(10)</sup>したがって、「社会生活の現実の中で、毎日重ねている生活経験がその人を育成し、一人の生活者として仕立て上げている事が実は教育」であり、「民主社会のより良き成員としての実践者の育成を目指して新しき学校は生活の構造そのままを学習の構造にし」なければならぬと、地域社会の生活経験に立脚した教育計画の編成を提唱する。<sup>(11)</sup>以上の点は一般的な地域教育計画観と変わらない。

では、地域教育計画の一般の問題点と指摘される地域的閉鎖性をどのように克服しようとしたのであろうか。その点について内原小は、「地域社会を単なる教育の材として」ではなく、「地域社会を目的的に取り扱うならば、その課題はより広い生活との関連に於て成立しているのであるから、現実の生活に立脚し乍ら、而も尚、より広い生活領域の認識へと進むことが出来る」と述べている。<sup>(12)</sup>「地域社会を目的的に取り扱う」学習をする単元はどのように構成されるのであろうか。

#### (2) 単元の構成

内原小の教育目標は地域社会と児童の実態調査にもとづいて設定され、具体的に四項目示されている。それらを要約すると“農村地域社会における良き実践者の育成”を目標とし、農村社会の生活に必要な知識の習得と実践力・態度の育成をめざしている。<sup>(13~14)</sup>

この教育目標達成のためにスコープとシーケンスを軸として単元が構成される。シーケンスは同心円拡大方式を採用せず、地域社会における児童の発達成長に焦点をあてて設定されている。それが図表一四である。このシーケンスは、1学年から6学年まで「自分の事、家の事と云う様な身近な事をよりよく改造する為に、世界の事もしらべなければなら

〔図表一Ⅳ 内原小学校のシーケンス〕

(⑧, 56)

1年・2年	3年	4年	5年・6年
身近な生活経験の良習慣の形成と身近な社会の事象の理解 自己生活の向上	自分を中心とした出来事、社会施設、習慣の理解と実践	家庭を背景とする自己の生活の態度方針を考えその立場で実践する 自己及びとりまく社会の向上	地域の課題の上に立って自己を見つめ明確な意識をもって自己及びそのとりまく社会の向上に実践する
自己の生活 →	自己を中心とする社会生活	社会の中に於ける自己生活	→ 社会人の生活

ない。』という考え方に立脚し、地域社会における児童の生活経験の深化・成長を前面に出して設定されたものである。「地域社会を目的的に取り扱う」という観点が反映されているといえよう。他方、スコープは社会機能法による一般的なものであるが、地域社会独自のスコープとするために、農村である内原村の「不均衡な社会的環境」を考慮して、スコープ別に地域社会の課題が設定されている。その課題は内原村の課題であるが、広範な社会の課題に関連したものと考えられている。したがって、単元は各学年段階で地域社会の課題をどのように学習させるかという観点から構成されるのである。図表一Ⅴ(次頁)は地域社会の課題と単元構成の関係を示したものである。内原小の単元はシーケンスよりもスコープに比重をかけて構成されていると考えられる。

このように、内原小の単元は地域社会の生活課題の解決という性格をもって構成されるのであるが、各単元の学習を進めるには、課題解決のための「文化財」が必要となる。いわゆるミニマム・エッセンシャルズの問題であるが、内原小は地域社会の実態調査等を経て自主的にそれを吟味選定するということの他に、学習指導要領等に示された内容を再編成するという二つの手続きを経て教育内容を編成している。内原小は地域と国家の双方の要請を統一して教育内容を編成しているのであり、先述した地域における教育計画の自主編成という主張とは幾分矛盾しているといえよう。その点で内原小の内容編成はコア・カリキュラム型と地域教育計画型の折衷様式となっており、「本郷プラン」等と異なる面を持った地域教育計画と考えられるのである。

また、以上のようにして構成された各単元の学習指導計画は、課題解決のために必要な内容が「社会的、算数的、理科的、芸術的、国語的、体育的」の6つに分けられて示されている。しかし、内原小は、これらの教科的内容が「単なる中心あつての周辺学習ではなく」、生活課程の一応の区分であり、すべての学習が生活課程であるとする。その点にコア・カリキュラムの構造論との相違の意識があると考えられるのである。

〔図表一V 内原小学校の学習課題と単元一覧表一昭和24年度一〕

学年	スコープ 社会の 課題	生産	消費	保 健		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生産増強はどのよう にすればよいか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農村に於ける消費生活 はどの様にあるべきか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農村に於ける健康生活 はどの様にあるべきか</li> </ul>		
1	学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○邪魔をしないようにし よう。どうしてお家の 人を労えばよいだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持物を上手に使うのに どうすればよいだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を丈夫にするのにど んな暮し方をすればよ いだろう</li> </ul>		
	単元	取り入れのころ (11月)	お勉強のお道具 (5月)	よい子 の一日 (6月)	お誕生 会 (7月)	運動会 (9~ 10月)
2	学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お家の人のお手伝いは どうすればよいだろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○買い物を手にするの にどうすればよいだろ う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を丈夫にするために 気をつけることを考え よう</li> </ul>		
	単元	家の人のお手伝いをしよう (5~6月)   取り入れ (10~ 11月)	買い物ごっこ (1~2月)	ままごと (6~7月)		
3	学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で出来る事は進 んでやりましょう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○私達の家や着物を上手 に使おう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○病気になった時どのよ うにすればよいだろう</li> </ul>		
	単元	お米と私達 (9~10月)	冬の生活 (11~12月)	お医者さんごっこ (5~7月)		
4	学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○村の人のお仕事を知ら う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家の暮しが便利になる ようにしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を自分で守るのにど うすればよいか</li> </ul>		
	単元	新しい村の模型を作る う (9~11月)	私達の生活研究室 (1~3月)	子供赤十字 (5~7月)		
5	学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仕事の能率を上げる工夫をしよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康な村を作るのにど うすればよいだろう</li> </ul>		
	単元	共同炊事 (9~12月)		健康な村・伝染病を防ご う (5~7月)		
6	学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○村の生産向上と将来を考えよう</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○科学的な健康増進を考 えよう</li> </ul>		
	単元	食料増産の方法について調べよう (9~12月)		迷信から私達の体を守 ろう (6~7月)		

交通・通信	教育・政治・保全		交際・娯楽・芸術		
○交通通信はどうすれば上手に利用できるか	○農村の民主化はどの様になればよいか		○農村の文化生活の確立はどうあるべきか		
○上手に学校に来るにはどうすればよいか	○楽しい学校やお家のくらしに慣れるのにどうすればよいか		○皆で仲よく楽しい遊びをしましょう		
お友達とお家とのりもの (2月)	楽しい学校 (4月)	ままごと (10月)	早く来い お正月 (12月)	お正月の 思い出 (1月)	学芸会と お迎いの 会 (3月)
○郵便を出せるようになる	○先生やお家の人にお世話をかけないようにしよう		○遊び道具を上手に作る工夫をしよう		
お便りを出しましょう (9月)	二年生の暮し を考えよう (4~5月)	二年生の暮し をふり返ろう (3月)	お正月の遊び道具を作ろう (12月)		
○汽車を上手に使いましょう	○楽しい学級を作る工夫をしよう		○楽しい学級を作る工夫をしよう		
乗り物ごっこ (1~2月)	よい学級 (4月)		二年生への贈り物を作りましょう (3月)		
	○規律正しい学校やお家を作るのにどうしたらよいか		○仲よく交際する方法を考えましょう		
	よい学級を作ろう (4~5月)		私達の祖先 (12月)		
	○民主的な村を作る事に協力しよう		○娯楽施設の工夫をしよう		
	村会 (4~5月)	差別事件を反省しよう (2~3月)	学校娯楽室を作ろう (1~2月)		
	○国の民主化達成はどのようにすればよいか		○村の人々を慰安しよう		
	よい学校を作ろう (4~5月)		慰安の劇をしよう (1~2月)		

### (3) 内原プランの特色と問題点

内原プランの特色は、地域社会の課題は農村社会の、広くは日本・世界の課題を反映したものであるので、地域的な課題の解決が広範な社会の認識につながるという考え方にもとづき、学習課題を地域社会（広くとも農村社会）の範囲内に求め、教育計画を自主編成している点である。それはスコープが農村である内原村の地域的課題に立脚し、シーケンスが地域社会における児童の生活経験の深化・成長という観点から設定されて、単元が構成されている点からも明らかであろう。このことを端的に示したのが「地域社会を目的的に取り扱う」ということだったのである。（そして、このような地域教育計画が編成されたのは、内原小が地域教育計画の推進者の一人である東京大学の伊藤忠彦氏の理論的指導を受けたためと思われる。）

では、内原小は「地域社会を目的的に取り扱う」教育を真に行い得たのであろうか。内原小の学習指導計画をみると、特に高学年では、地域社会の課題解決のために日本・世界の事を調べるように構成されている。例えば、5学年の単元「差別事件を反省しよう」では日本国憲法の学習が行われている。したがって、一応、「地域社会を目的的に取り扱う」学習が行われ、地域的閉鎖性を打破する方向は示されていたといえよう。しかし、内原小のいう日本・世界の事は、同校が設定した地域社会的課題に関係する範囲内に限定されるのであり、その点で地域的閉鎖性は残存する。内原小の導いた地域的閉鎖性克服の視点は一面では効力をもつが、充分なものではなかったといえよう。

## 4. おわりに

本稿で考察した<sup>⑨</sup>両校のカリキュラムはコア・カリキュラム型と地域教育計画型の特色を多く持ち合わせたものであった。吹上小のめざした理想の人間像は“世界的視野に立った民主的な実践人”であり、内原小のそれは“地域社会（農村社会）的視野に立った民主的実践人”である。したがって、児童の問題解決活動は、内原小の場合、地域社会の生活課題を対象として展開したのに対し、吹上小の場合、将来児童が生活していく中で遭遇しなければならない日本的・世界的視野の課題をも対象とする。両校のカリキュラムを目的・内容・方法の面から見れば、このような特色と相違点を持っているといえよう。

ところで、このような両校のカリキュラムの特筆すべき点は、その型のもつ一般的な問題点を克服し得る視点を打ち出していたことであろう。吹上小が編成した教育（人間主体育成）の立場からのカリキュラム——特にスコープによく表わされていた——は機能主義的適応主義的なカリキュラムを克服し、社会への適応から更に社会改造へと向う主体の人間の育成を可能にするという特色のあるものであった。このようなカリキュラムが機能主義的カリキュラム全盛の折に編成されたことは大いに評価されるべきであろう。また、内原小の地域社会の生活課題の解決を前面に出した教育計画——特にシーケンスによく表わされていた——は、「地域社会を目的的に取り扱う」という視点によって、地域的閉鎖性を克服しようとする特色のあるものであった。しかし、両校のカリキュラムは一般的な問

題点を克服する視点を出すにとどまり、その課題に実質的に応えているとは言い切れない。そこに、その時期のカリキュラムとしての限界性があると考えられるのである。

#### <注および引用文献>

- ① 吹上小学校『吹上教育第一集・生活カリキュラムの研究と実践』, 1948.
- ② 吹上小学校『吹上教育第二集・本校プランの理論』, 1949.
- ③ 吹上小学校『吹上教育第三集・要素単元表, 問題単元表』, 1949.
- ④ 吹上小学校『吹上教育第四集・学習指導計画表1・2・3年の部』, 1949.
- ⑤ 吹上小学校『吹上教育第五集・学習指導計画表4・5・6年の部』, 1949.
- ⑥ 内原小学校『教育のあゆみ第二輯』, 1948.
- ⑦ 内原小学校『教育のあゆみ第三輯』, 1950.
- ⑧ 和歌山県実験学校協会, 和歌山県教育庁指導課編『昭和22年—昭和24年和歌山県実験学校紀要』, 1950.
- ⑨ 文部省『学習指導要領一般編(試案)』, 1947.
- ⑩ 肥田野直, 稲垣忠彦編『教育課程(総論)戦後日本の教育改革6』, 東京大学出版会, 1971.
- ⑪ この記述に関しては⑩の他, 次の文献を参考にした。東京大学カリキュラム研究会『日本カリキュラムの検討』, 明治図書, 1950。日比裕『戦後社会科教育史(1)~(2)』(『考える子ども』No.41~62, 1964~1966) 田中武雄『戦後社会科の復権』, 岩崎書店, 1981。等
- ⑫ 『カリキュラム』1950年3月号。
- ⑬ 大田堯『地域教育計画』, 福村書店, 1949.
- ⑭ 吹上小学校の昭和25~30年の社会科教育実践については, 拙稿「戦後初期社会科教育実践史研究—昭和25~30年の吹上小学校の教育実践—」(中国四国教育学会『教育学研究紀要』第28巻, 1983)を参照。

〔付記〕 本稿作成にあたって, 元吹上小学校教諭・雑賀明先生, 玉井廉先生, 湯川馨先生, 元内原小学校教諭・深海豊先生, 他多勢の先生方に貴重な資料を拝借させていただくと共に御助言を賜りました。末尾ながら, 心より御礼申し上げます。

※本稿中では, 引用文中の旧字体はすべて新字体に改めた。これは, 引用文献の中で新旧の字体が混用され極めて煩雑であるためである。